



こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2015 春号



地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む「こもれび」のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。

Contents

・平成27年度 島原病院 新年度の取組み 長崎県島原病院 院長 松尾繁年	2
・専門医に聞く 第27回サイコオンコロジー学会・教育功労賞を受賞して 血液内科 小川大輔	3
・専門医に聞く 緩和ケアチーム 麻酔科 田中敏普	4
・研修医紹介	4
・連携医療機関の紹介 水田小児科 / つねおかクリニック	5
・部門 Topics 検査科 浅田理美	6
・新任医師紹介	7
・数字で見る島原病院	8

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。

平成27年度

島原病院

新年度の取り組み

長崎県島原病院 院長 松尾 繁年



1. 地域医療支援病院として

地域医療機関から前年度以上ご紹介いただけるよう努力いたします。
また、逆紹介を推進します。

2. 地域がん診療拠点病院として

がん診療体制のさらなる充実を図り、地域住民や医療機関に信頼され安心して受療していただける病院を目指します。
がん市民公開講座を継続し情報を発信します。

3. 高次脳卒中センターとして

急性期を過ぎた患者さんが回復期リハ施設やその他の施設、あるいは自宅復帰に向けて、シームレスで円滑な連携をとっていきます。
脳卒中市民公開講座を継続していきます。

4. 救急医療体制の充実を図る

地域医療機関、救急隊と連携を強化し、スムーズな救急患者の受け入れ体制の強化を目指します。

5. 小児科診療のさらなる充実を図ります

医師会と協働して小児日曜診療の継続を推進します。

6. 活力ある病院づくりのため人材育成にさらに努めます

7. 経営健全化に努めます

DPC 病院として病院体制の充実に努めます。

8. 働きやすい病院づくり

子育てしやすい職場づくりをめざし院内保育所の来年度からの開設をめざします。

病院職員一丸となり地域中核病院としての自覚をもって邁進します。
地域医療機関、地域住民の皆様のご支援、ご協力お願いいたします。



血液内科

小川 大輔

Ogawa Daisuke

第27回 サイコオンコロジー学会・ 教育功労賞を受賞して

この度、第27回サイコオンコロジー学会教育功労賞を受賞いたしました。このような賞をいただき大変光栄です。血液がんと言うと、患者さん、その家族は“不治の病”と思われがちです。がん告知時には、多くの方が涙を流され、死亡宣告ととらえる方も多いのが実情です。しかし、半世紀前までは難治性であった血液腫瘍も、21世紀になって様変わりしてきています。多くの新規抗がん剤（分子標的治療薬など）の登場、移植療法（非血縁者間移植、臍帯血移植、ミニ移植など）、支持療法（制吐剤、G-CSF、抗生剤など）の発展により、目覚ましい進歩を遂げています。慢性骨髄性白血病（CML）を一例に挙げますと、私が医師に成り立てのころは骨髄移植をしないと殆どの患者さんが命を落とす病気でしたが、分子標的治療薬のイマチニブの登場により、多くの患者さんが移植せずとも経口剤にて長期寛解を維持できるようになりました。半世紀前にはほぼ全滅であった白血病も少しずつ進歩してきています。昔は治らなかった血液腫瘍でも、今では治療の恩恵により、がん survivor として日常生活への復帰も視野にいれることが可能になりつつあります。しかし、依然として多くの血液腫瘍は予後不良疾患であることは間違いありません。告知時に頭の中が真っ白になっている患者さん、医学用語の連発



□理事長の松島英介先生と

に困惑している患者さん、言いたいことも言えずにもどかしそうにしている患者さんに対して、話しやすい環境作り、病識理解の手助けができればと思っています。患者さんの残された時間を少しでもより良いものにするために、サイコオンコロジー学会やコミュニケーション技術研修会で得た知識・技法を取りえながら、今後も接していきたいと考えています。また、患者さん、その家族との関係を良好にする上でも SHARE プログラムは大変有用と思います。コミュニケーション技術研修会を通じて、ファシリテーターの役割を担わせていただいている時も、いつも新たな気づきや驚きがあります。今後も SHARE プログラムの普及に今まで以上に精進したいと思います。



麻酔科

田中 敏普

Tanaka Haruyuki

緩和ケアチーム

2007年4月『がん対策基本法』が施行され、
《がん研究の推進・がん医療の均てん化・がん医療の提供体制の整備》この3つを基本理念として進められ、その中に、緩和ケアの提供・整備も含まれている。

緩和ケアとは？ 日本緩和医療学会は「市民に向けた緩和ケアの説明」で、『緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族の一人一人の身体や心などの様々な辛さを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア』と定義し、また、厚生労働省は「国民に向けた緩和ケアの普及・啓発についての取り組み」の中で『緩和ケアとは、病気に伴う心と体の痛みを和らげること』と述べている。

当院の緩和ケアチームは、医師(身体症状担当・精神症状担当)、緩和ケア専従看護師、薬剤師、療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなどから構成され、多職種によるチームアプローチができるようにしている。



がんと診断された時から、患者・家族の肉体的・精神的・社会的苦痛、スピリチュアルな苦悩などに、緩和ケアチームで関わり、多職種の特性を生かして、患者・家族に対して、「心情への配慮・適切な情報提供と意思決定支援・ニーズに応じた治療、療養の場の提案、提供」を行えるようにしている。

がん診療連携拠点病院として、地域の医療従事者に対して、緩和ケア合同症例検討会、緩和ケア研修会などを開催し、緩和ケアの普及・啓発に努めながら、《切れ目のない緩和ケア》が実行できるように、顔の見える

関係性の構築に
励んでいる。

緩和

研修医の紹介



研修医 松瀬慶和

①出身地

長崎県佐世保市

②趣味 / 特技

ドライブ、ジョギング

③ごあいさつ

今年度から長崎県島原病院で研修医として勤務させて頂くことになりました。フレッシュマンとは決して言えない見た目と年齢ですが、日々努力し精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。



連携医療機関のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！
いつもご協力いただいている地域の医療機関をご紹介します。

水田小児科

院長 水田 舜助 先生

島原市親和町7番地 ☎0957-62-7177

本院は1984年1月に小児科有床診療所として開院しました。

開院当時は島原病院(当時は島原温泉病院)には小児科のベッドがなく、重症の患者は諫早、大村、大学などの2次、3次病院にお願いしておりました。

2002年に島原病院に小児科が開設され、そういった患者をお願い出来るようになり、非常に助かっておりました。

そういう意味で、2014年4月から小児科が再び開設され、心強く思っています。また、放射線科や外科系の先生方にもいつもお世話になっています。

診療のモットーは視診、聴診、触診所見を大切に、特に子供の場合、視診を一番重要視しています。そして24時間子供のそばにいる保護者と一緒に患児を治療していこうという姿勢をとっています。そのため、病気の重症度の見方を保護者にしっかり伝えるようにしています。

スタッフは、ほとんどが開院以来一緒に仕事をしてきた仲間で、私の治療方針もほとんど把握されており、安心して診療ができ、感謝しています。

最近、やや体力の衰えも感じますが、この年齢でも医療という緊張した仕事ができる事を幸せに思い、もうしばらく頑張っていこうと考えています。



つねおかクリニック

院長 常岡 伯紹 先生

南島原市有家町久保 21-1 ☎0957-82-2248

平成21年3月に長崎大学移植・消化器外科を退局し、3年間口之津の哲翁病院で地域医療に従事した後、平成24年6月1日に父祖の地である有家町に開業させて頂きました。

私の専門は消化器外科、特に肝胆膵領域の外科でしたが、今まで務めた医療機関では、乳腺甲状腺や各領域のプライマリーケアにつきましても散々鍛えられてまいりました。専門医を専門店、総合病院をデパートだとしたら、私のクリニックは「医療のコンビニエンスストア」を目指し、どこに行けばわからない時にはとりあえずあそこに相談してみようと思わせるようなクリニックにしたいと思っています。しかしながら、専門的治療の紹介や救急対応などで、島原病院をはじめ近隣の医療施設の先生方には大変ご迷惑をお掛けしております。ご容赦頂きますとともに、今後とも何卒宜しくお願いいたします。

現在の診療のモチベーションは、消化器・内分泌疾患の早期発見です。特に現在では、ウイルス性肝炎や消化器の悪性疾患は早期で発見できれば十分治療が期待できますので、島原病院をはじめ関連病院に少しでも良い状態で紹介できるように上部消化管内視鏡やエコーなどで目を光らせていきたいと思っています。

また現在は在宅医療や緩和医療などにも注目が集まっていますが、このような分野こそ外科開業医の仕事であると考えていますので、私も積極的に外に出て行きたいと思っています。

あまり仰々しいことは言えませんが、知識に裏付けられた患者さんにやさしい医療を目指して日々精進していきたいと思っています。



術中迅速検査とは (凍結組織切片作製装置について)

・術中迅速病理診断とは

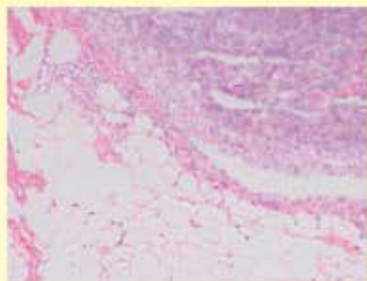
病理診断を行うためには病理組織標本の作製が欠かせません。手術などにより患者さんから採取した臓器をホルマリンに漬けて、専用の機械にかけ、さらにロウ漬けにするなど、さまざまな過程を経て標本にすることができます。標本は専門の病理医に届けられ、顕微鏡で観察することにより診断がなされます。この過程は通常 2～3 日を要しますが、術中迅速病理診断は、手術中に返事をするために通常の工程を簡略化することで、迅速な病理診断を提供できる検査方法です。

当院では昨年より病理医の先生が常勤となり、この検査の需要が高まりました。そこで昨年、術中迅速診断に欠かせない、最新型の凍結組織切片作製装置の運用が始まりました。

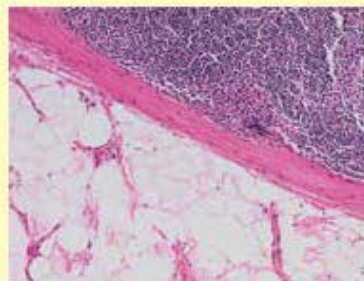
従来機では装置内の設定温度の限界が -14°C でしたが、新型は -30°C まで冷却が可能となりました。最新の機能をそろえた凍結組織切片作製装置ですが、一番の特徴は油分が多く、処理が難しい脂肪組織（乳腺）の対応が可能になった点です。



検査科 浅田 理美



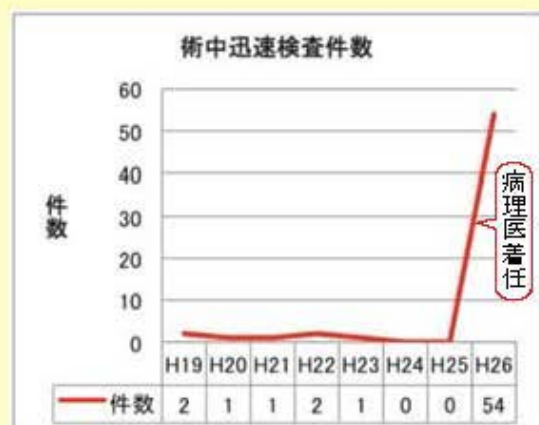
手術中の臓器を用いて最新の凍結組織切片作製装置で作製した標本



手術後、確認のため通常の工程で作製し直した標本



平成 26 年度は 54 件の検査依頼があり、手術中の検体を病理診断することで、細かい方針変更や、切り取る臓器の範囲を正確に決定することが出来ました。より質の高い病理診断を提供するため、私たち臨床検査技師および病理医の先生とで二人三脚、日々精進していきたいと思います。



昨年度(平成26年度)の実績は、54件でした。

数字で見る島原病院

○外来及び入院患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来患者数(人/日)	271.2	279.8	289.5
紹介患者数(人/年)	4,888	5,208	5,375
平均新入院患者数(人/日)	12.2	13.0	12.9
平均入院患者数(人/日)	203.4	206.2	205.2
平均在院日数(日)	14.7	14.2	14.8



○手術件数

診療科	内容	平成24年度	平成25年度	平成26年度	診療科	内容	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
外科	消化器及び腹部内臓	412	453	355	整形外科	下肢骨接合	234	168	192	
	頭頸部・体表・内分泌外科	108	125	228		上肢骨接合	73	62	77	
	乳腺	75	61	58		人工骨頭(股)	60	58	72	
	小児外科	11	9	5		鏡視下関節手術	10	7	12	
	呼吸器	7	11	9		腱の手術	28	17	26	
	各臓器の外傷	1	6	1		神経の手術	15	10	11	
	小計	614	665	656		関節形成	6	39	79	
脳神経外科	脳腫瘍	21	3	9		その他	135	97	131	
	脳血管障害	23	14	12		小計	561	458	600	
	高血圧性脳内出血	15	12	7		泌尿器科	腎・尿管悪性腫瘍手術	7	7	5
	急性硬膜外血腫	1	1	1	根治的前立腺全摘術		9	12	5	
	急性硬膜下血腫	11	8	1	根治的膀胱全摘術		1	0	0	
	慢性硬膜下血腫	33	40	37	尿管皮膚瘻術		1	0	0	
	水頭症	8	9	6	経尿道的前立腺切除術		8	7	8	
	脊椎・脊髄	1	0	0	経尿道的膀胱腫瘍摘出術		50	48	66	
	脳神経減圧術	0	0	0	前立腺生検		158	152	119	
	血管内手術	8	8	11	その他		66	78	82	
	脳低位的放射線療法	5	7	12	小計		300	304	285	
	その他	30	25	11	全科合計			1,631	1,554	1,648
	小計	156	127	107						



発行／長崎県島原病院

(広報委員会事務局：地域医療支援センター)

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町 7895 番地

TEL 0957-63-1145 (代表) 内線 116 FAX 0957-63-6544

URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>

外来受診時間 午前8：45～午前11：00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
平成26年4月7日より小児科再開しております。
※詳しくはホームページをご覧ください。

休診日 土・日・祝日

年末年始 (12月29～1月3日)